

§ 4 学力検査問題の分析（正答率・分析等）

国語

1 国語
(1) 正答率

大問	問題番号	配点	通し番号	正答率 (%)	中間点取得率 (%)	学習指導要領の内容			観点		解答方式			正答率	中間点	不正答	
						知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		主として知識・技能をみる	主として思考・判断・表現をみる	多肢選択	記述(短答)	記述(説明)				
							(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項									(3) 我が国の言語文化に関する事項
1	問1	(1)	2	①	96.9	—	○			○		○					
		(2)	2	②	50.5	—	○			○		○					
	問2	(1)	2	③	71.9	—	○			○		○					
		(2)	2	④	67.8	—	○			○		○					
	問3	(1)	3	⑤	30.2	—		○		○		○					
		(2)	4	⑥	26.2	—	○			○		○					
	問4	(1)	4	⑦	21.0	—			○		○		○				
		(2)	3	⑧	67.9	—			○		○		○				
		(3)	3	⑨	90.1	—			○		○		○				
2	問1	1	2	⑩	60.7	—	○			○		○					
		2	2	⑪	88.3	—	○			○		○					
	問2	4	⑫	39.7	—	○			○	○		○					
	問3	3	⑬	39.1	—				○		○		○				
	問4	①	4	⑭	37.3	24.1				○		○		○			
		②	4	⑮	33.3	16.3				○		○		○			
	問5	5	⑯	41.0	—				○		○		○				
問6	8	⑰	2.6	57.5				○		○		○					
問7	8	⑱	9.9	37.4				○		○		○					
3	問1	4	⑲	57.9	—	○			○		○		○				
	問2	4	⑳	31.7	—		○		○		○		○				
	問3	(1)	3	㉑	58.2	—	○			○		○		○			
		(2)	4	㉒	14.3	16.7		○		○		○		○			
4	問1	3	㉓	76.3	—	○		○		○		○					
	問2	4	㉔	51.1	—			○		○		○					
	問3	5	㉕	9.1	54.0	○		○		○		○					
	問4	8	㉖	18.3	35.1	○		○		○		○					

観点	主として知識・技能をみる	59.0	
	主として思考・判断・表現をみる	37.6	
解答方式	多肢選択	51.3	
	短答	67.9	
	説明	20.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	34.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	25.4
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.6
		B 書くこと	38.7
		C 読むこと	30.7

(2) 義務教育段階の傾向や課題

義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には、場面と場面、場面と描写を結び付けて内容を解釈することや、自分の意見や考えが何に基づいているかを明確に表現することに課題がみられる。

○傾向や課題を踏まえた特徴的な問題 【大問二 問七】

正答率(9.9%)
中間点(37.4%)

【考えの形成】

【精査・解釈】

【構造と内容の把握】

問五 — 線4「私は唯然としていた」とありますが、その理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 口訣集は、他の一門に知られてはいけない秘伝であり、直ちに返す必要があると思っていたのに、持ち出した本人が直接返すのでなければ受け取らないと言われたから。

イ 口訣集は、研究の成果が詰まったものであり、誰でも手に入れたくなるものであると思っていたのに、門人たちは持ち帰ろうとせずに、ひたすら書き写していると言われたから。

ウ 口訣集は、門人たちが医術を修得するまでは、他の医者に伝えてはいけないと思っていたのに、持ち出したことを責めるところか、先生自身にも非があると言われたから。

エ 口訣集は、自分の息子にしか伝承しないほど大切に守るべきものだと思っていたのに、勝手に持ち出したことをとがめるところか、返さなくてもよいと言われたから。

問六 — 線5「願ったりです」とありますが、先生がこのように言ったのは、「私」が口訣集を本にして広めることが、先生のような願いを実現することにつながるからですか。先生が、医術とはどのようなものであると考えているかに触れ、七十五字程度で書きなさい。

問七 ……線「この口訣集を私が本にして、広めてもいいことになりませぬ」とありますが、このせりふに興味を持った中学生の本問さんと黒田さんが、江戸時代の本について調べました。次は、二人がそれぞれ調べたことを報告し合っている会話の一部です。これを参考に、本に関して、現代と共通するところと、異なるところを、身近な例を用いてそれぞれ書きなさい。

本問さん 江戸時代には、本がどのように出版されているのか調べたら、手で書き写された「写本」と、印刷された「版本」があることが分かったよ。

黒田さん 印刷はどうしていたの？

本問さん 全部手作業だよ。一度に大量に印刷できないから本は貴重だったんだって。それに高価だから、庶民は本を買うのではなくて、お金を払って貸本屋から借りて読んでいたんだって。

黒田さん そうなんだ。私が読んだ本には、江戸時代初期の学者である貝原益軒という人が、「書物を読むには、まず手を洗い、心を慎み、姿勢を正しくし、机のほこりを払い、書物を正しく机の上に置き、ひざまずいて読め。」と説いている文章があったよ。

本問さん ずいぶん厳格だったんだね。

黒田さん でもね、庶民が読んでいるこんな句も見つけたよ。

読みながらつれづれ草や肘枕
幾度も源氏はあかぬ書物にて
飽きることはない。

本問さん おもしろいね。

1 出題のねらい

[問題の内容]

各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けることによって内容を解釈する力や、文章を読んで理解したことを自分の既存の知識や様々な経験と結び付けて考えをまとめたり深めたりする力をみる問題。

[解答までのプロセス]

- ① 問五で、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える。
- ② 問六で、場面と場面、場面と描写などを結び付けたり、登場人物の言動の意味を考えたりするなどして内容を解釈する。
- ③ 問七で、問六までに理解したことを踏まえ、別資料(会話文)から理解したことを自分の既存の知識や経験と結び付け、表現する。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと (1) 才

文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

2 解答の状況と分析

この問題の正答率は9.9%、中間点の取得率は37.4%であった。受検者にとっては、古典の一節などを引用して、自分の既存の知識と結び付け、江戸時代と現代の共通点と相違点を的確に表現することが難しかったと考えられる。

(3) 今後の授業の在り方

○ 授業実践例

国語

C 読むこと【中学校 第1学年 国語】

場面と場面、場面と描写などの結び付きに注目して読み、自分の考えをもつ。

指導事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」考えの形成、共有

言語活動例

イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

学習過程

〔主な学習活動〕

〔指導上の留意点〕

第一次

設定した言語活動：「紹介文を書こう」

① 「少年の日の思い出」を読み、本文の描写を用いて紹介文を書くという活動に取り組むことを把握し、学習の見通しをもつ。

■ (①について) (教員等が作成した) 紹介文の例を用いて、作成する紹介文を想起させるとともに、作成する際になぜ、その表現に着目したのか、本文の展開を基に、自分の考えを明確にするよう伝える。

第二次

② 教材文について、紹介したい描写を探す。

■ (②について) 生徒が日常使っていない表現などにも目を向けさせ、語彙の量を増やせるよう促す。

③ なぜ、その描写に着目したかを整理する。

■ (③、④について) クラウド上で、「着目した描写」や「働き」について相互に意見を書き込み、自分の考えを明確にさせる。

④ クラウド上の自他の考えを参照し、コメントを付けるなど交流をしながら、着目した描写が、文章の内容や印象にどのような働きをしているかを考える。

【Aさんの選んだ描写】
「とにかく、あらゆる点で、模範少年だった。」
【Aさんが着目した理由】
「模範少年」と「とにかく、あらゆる点で」のもつ言葉の印象が逆で、言葉と言葉のつながりがしっくりこないため。
【BよりAさんへのコメント】
「メールを説明する描写を通して、僕の「思い出の不愉快さ」を表してるのかな。
【CよりAさんへのコメント】
「非のうちどころがないという悪徳」や「正義をたてに、」という描写も同じ効果が考えられるね。
【Aさんの考える選んだ描写の本文での働き】
「メールの人物像を表すようできて、実は僕のメールへの妬みや憎しみを強く表している。」

⑤ ③、④で書いたり、考えたりした内容を基に紹介文を作成する。

■ (⑤、⑥について) 対象、字数等の条件を生徒と決め、クラウド上で紹介文を作成させるとともに、なぜその描写に着目して作成したのかについて、本文の展開を基に説明する文章を記述させる。

⑥ クラウド上の自他の文章を参照、交流しながら、紹介文を練り上げる。

【紹介文例】
模範少年は、罵りさえしなかった。
僕は、模範少年メールのチョウをこなごなにした。とにかく、あらゆる点で、模範少年であるメールのチョウを。これは、彼の幼年時代の不愉快な思い出の話。

第三次

⑦ 単元の学習を振り返る。

■ (⑦について) 紹介文の作成を通して、本文をどのように捉え直したのかをクラウド上で、振り返らせる。

○授業づくりのポイント

この単元では、本文の描写に着目し、クラウドを活用して自他の考えを参照、交流しながら、構造と内容を把握し(学習活動③、④)、精査・解釈を行った(学習活動⑤、⑥)上で、自分の考えを確かなものにしていく活動(学習活動⑦)を行った。このように、言語活動を通して、自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで、自分の考えを確かなものにしていくような学習活動の一層の充実が求められる。

(4) 高等学校における指導の在り方

高等学校では、「現代の国語」や「言語文化」において、叙述を基に、構成や展開、内容を理解(構造と内容の把握)し、目的に応じて意味付けたり考えたり評価したりする(精査・解釈)こと、さらに自分の考えを形成し、探究することを通して自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。例えば、文章を読み、引用や要約をしながら論述したり批評したりする活動や互いの解釈の違いについて話し合ったりするなど、自分の考えを深めていくような学習活動の一層の充実が求められる。